

Ⅱ. 新入生アンケート

新入生のボランティア意識

－「2015年度 新入生ボランティア活動アンケート」

1. 調査の概要と結論

ボランティアセンターでは、2001年度より、新入生のボランティアへの意識や活動の意向を把握することを目的に、毎年4月の新入生オリエンテーション時にボランティア活動に関するアンケート調査を実施している。2015年度調査では、回収率は96.1%と高く、2,826名の新入生から回答が得られた。回答者数の学科別割合はほぼ定員を反映しており、性別では男性が38.9%、女性が60.8%と女性が多かった。性別によるクロス集計結果から、女性の方がボランティア経験（女性48.9%、男性36.6%）・大学におけるボランティア参加希望（女性83.4%、男性63.3%）ともに高いことが示されており、このことが本調査結果全体に影響していると考えられる。

大学時代にボランティア活動を通して学ぶことに大いに興味がある・あると回答した学生は、全体の64.5%であり、興味があまりない・全くないと回答した学生（7.5%）を大きく上回っている。この傾向は、ボランティア活動希望者数についても同様であり、前年2014年度調査と同じ75.5%の学生が何らかのボランティア活動への参加を希望している。また、ボランティア活動への導入の機能を担う「1 Day for Others」への参加希望者（1,060人：37.6%）は増加傾向にあり、「状況を確認してから参加する」を合わせると、参加を検討している新入生は2,500人（90%）を超えている。実施体制の早急な整備が望まれる。

ボランティア活動に参加したい理由についてはここ数年変わらず、本学の教育理念“Do for Others”を具現化するものである「地域や人のために貢献する」に加えて、ボランティア活動を通じた「学び」—新たな出会いや経験による視野の広がり、授業だけでは得られない考え方・知識・経験などを得たいという理由が高い割合を占めている。これらの学びを深めていくために、ボランティアコーディネーターによる関わりをはじめとしたさまざまな面からの活動支援が求められる。

一方、参加したくない理由としてあげられたもののうち、「関心がない」（34.0%）については、当然のことながら興味に応じた内容の工夫が、「きっかけがない」（21.8%）については、敷居の低い活動形態や内容の工夫に加え、ボランティアセンターを開かれた場所に配置し、気軽に立ち寄れるようにするなどの工夫が有効であると考えられる。

学科別集計からは、学科の特性に応じた分野への興味が示された。新入生はボランティア活動に対して、課外活動としての学びのみならず、正課教育と関連した学びを期待していると言えよう。

本学では、2016年度新入生から、ボランティア実践と正課科目を有機的に体系化し、学生たちがボランティア活動による学びを主体的に正課教育と関連づけて学ぶ仕組み「明治学院大学 教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」の導入を予定している。本プログラムは大学全体の教育の質

の向上を目指したものであるが、本アンケート結果からみて、学生のニーズを反映したプログラムであると言えよう。

2. 調査結果

(1) 大学入学前のボランティア活動参加

大学入学前のボランティア活動参加の有無については、参加有りが44.2%（前年度43.8%）、参加なしが55.7%（前年度56.1%）であった。活動分野では、調査開始の2012年度から変わらず、環境が多く（22.2%）、次いで子どもと社会福祉（21.0%）、まちづくり（12.1%）の4分野で全体の約4分の3を占めている。

(2) 大学におけるボランティア活動に関する希望

大学時代におけるボランティア活動への参加希望者数は2,134人（75.5%）で、前年2014年度調査結果（75.5%）と変わらなかった。参加したい理由としては、第1位が「新しい出会いや経験を得たい」（52.2%）、第2位が「ものの見方や考え方を広めたい」（44.9%）、第3位が「知識を広げたい」（39.3%）、第4位が「地域や人のために役立ちたい」（34.8%）、第5位が「授業では得られないものを学びたい」（32.8%）であった。内容別集計では、男性が特徴的に「スポーツ」の指導、サポートへの興味を示した。

参加したくない理由は、「関心がない」（34.0%）、「時間がない」（31.5%）、「きっかけがない」（21.8%）であり、昨年と同じ傾向を示した。これを男女別に見ると、特に「関心が無い」では男性が（男性38.5%：女性27.7%）、「きっかけがない」では女性が（男性19.1%：女性26.0%）多かった。

(3) ボランティア活動の認知度

入学前に本学のボランティア活動を「知っていた」回答者数は1,550人（54.8%）で、増加傾向にある（2013年度42.5%、2014年度50.1%）。本学ボランティア活動に関する情報入手は「大学ホームページ」が62.2%と突出して高く、「オープンキャンパス」（30.0%）と合わせて9割を超えており、メディア、口コミと比較して大学による広報の効果が示されている。

(4) 関心分野

関心のあるボランティア活動分野は、「国際」（14.8%）が最も高く、次いで、「環境」（11.6%）、「まちづくり」（11.1%）、「子ども」（11.0%）、「文化」（10.6%）となっており、ほぼ例年と同じ傾向であった。「被災地支援」は6.7%と前年度7.4%よりやや減少した。本学ボランティアセンターによる被災地支援活動は、2015年度に文化庁の助成を受けるなど被災地内外においてその意義が認められ、国内外から多くの視察や訪問者が続いている。災害に対する支援は息の長い支援が必要とされる。震災後5年目を迎え、これまでの支援・活動を振り返り、今後の方向性を検討していくことが求められる。

学科別集計では、「国際」分野には英文・国際経営・国際・国際キャリア学科生が、「社会福祉」分野には社会福祉学科生が、「子ども」分野には教育発達学科生が、「文化」分野には芸術学科生と、学科の

学びと関連した興味を示されていた。

(5) 「1 Day for Others」への参加希望

「1 Day for Others」への参加希望では、「参加する」(205人：7.3%)、「可能なら参加したい」(855人：30.3%)、「状況を確認してから参加する」(1,481人：52.4%)と参加を検討している学生の割合(89.9%)は前年度(84.4%)より増加傾向にあった。

(ボランティアセンター長補佐 杉山恵理子)